

クロソイ放流技術開発調査　－抄録－

※三戸 芳典・中田 凱久・山田 嘉暢

発 表 誌 名

平成4年度放流技術開発事業報告書、クロソイ班、平成5年3月、P78～95

抄 録

1. 市 場 調 査

(1) 平成4年度の漁獲実態

- 1) 脇野沢村漁協と大戸瀬漁協の昭和61年から平成4年までの月別漁法別銘柄別漁獲量と金額を調べた。
- 2) 脇野沢村漁協は増加傾向にあるが、大戸瀬漁協は横ばいであった。
- 3) 漁法別漁獲量では、これまで通り両漁協とも底建網を主体とした小型定置が最も多い。

(2) 平成3年度天然魚の魚体測定

- 1) 脇野沢村漁協と大戸瀬漁協に水揚げされたクロソイの成長及び全長と体重の関係等について、耳石の測定や検体調査、市場調査結果から調べた。
- 2) 脇野沢村漁協の成長について、Von Bertalanffy の成長式から雌雄別の各年齢毎の成長は次のようになった。
雌：1才13.6cm、2才23.8cm、3才31.5cm、4才37.2cm、5才41.1cm
雄：1才13.9cm、2才22.7cm、3才28.9cm、4才33.3cm、5才36.4cm
- 3) 大戸瀬漁協の成長について、Von Bertalanffy の成長式から各年齢毎の成長は次のようになった。
1才12.3cm、2才22.0cm、3才30.2cm、4才37.3cm

2. 追 跡 調 査

(1) 脇野沢村漁協

- 1) 平成4年9月14日と30日脇野沢村牛の首沖と瀬野海釣り公園内に97,031尾を放流した。
- 2) 試験操業にはアイナメ簗とホタテ丸簗を29ヶ所に設置し、放流後36日間に10回実施した。
- 3) 放流初期の自然死亡係数(M)は0.186612と推定された。

(2) 大戸瀬漁協

- 1) 平成4年9月9日と18日大戸瀬漁協漁港西側と東側に76,450尾を放流した。
- 2) 試験操業にはアイナメ簗を13ヶ所に設置し、放流後25日間に8回実施した。
- 3) 放流初期の自然死亡係数(M)は0.157983と推定された。ただし、脇野沢村漁協より移動、分散が大きかったものと思われる。

※：現青森県水産部水産課